



自然の書をめぐり  
恐竜の「生きる」を  
たずねる

小林快次

(北海道大学総合博物館准教授)

中村桂子

## 無限の力を秘めた生きもの

**小林** 先週まで発掘していました。毎年、夏はフィールド調査で、つい先日モングルから帰国しました。

**中村** 心身ともに大変でしょうけれど魅力的なお仕事ですね。

**小林** シャワーのないテント暮らしも多く、険しい山も登りますが、やらせてもらっている僕自身はとても楽しいです。

**中村** 本物に出会える喜びは格別でしょうね。

**小林** はい。自分の目で見つけて、自分の手で発掘する。最高に楽しい仕事です。  
**中村** 私の若い頃、恐竜といえば、子どもたちは大好きだけれど、怪獣と同じような扱いでした。それがこのところ急速に学問になってきましたでしょう。そもそも進化というテーマに、生物学者が正面から取り組めるようになったのは、二十世紀半ばのDNA発見以来です。進化や起源という言葉には誰もが興味をそそられます。しかし、以前は、もしも専門家がそんな言葉を口にしたら、研究者としてあの人はもう終わったというように思われたものです。

**小林** そうなんですか。

**中村** 進化って、現役を引退した研究者が語る夢物語のように受け止められていたのです。その後、ゲノム解析

小林快次(こばやし・よしつぐ)

一九七一年福井県生まれ。一九九五年米ワイオミング大学地質学地球物理学科卒業。二〇〇四年米サザンメソジスト大学地球学科、博士号取得。現在、北海道大学総合博物館准教授。大阪大学総合学術博物館招聘准教授。著書に『ほくは恐竜探検家』『恐竜は滅んでいない』『恐竜時代』ほか監修多数。